

福岡県高齢者福祉生活協同組合

感染症対策のための指針

1. 感染症対策に関する基本的な考え方

感染予防・再発防止対策および集団感染事例発生時の適切な対応方法を施設・事業所において確立し、適切かつ安全で、質の高い介護・福祉サービスの提供を図ることができるよう、感染対策マニュアル・感染症業務継続計画(BCP)などのマニュアル・社内規程および社会的規範を遵守するとともに、当法人における適正な感染対策の取組みを行う。

2. 感染予防・再発防止対策および集団感染事例発生時の適切な対応等の整備

(1) 平常時の対策

- ① 「感染対策委員会」を設置・運営し、適正な感染予防・再発防止策等を整備する態勢の構築に取り組む。
- ② 職員の清潔の保持及び健康状態の管理に努め、特に、従事者が感染源となることを予防し、利用者および従事者を感染の危険から守ることを目的とした「感染対策指針」を整備する。
また、「日常支援にかかる感染管理」として、以下の項目を定める。
 - イ) 利用者の健康管理
 - ロ) 職員の健康管理
 - ハ) 標準的な感染予防策
- ③ 職員教育を組織的に浸透させていくため、全職員や委託業者を対象に年2回以上の「研修」(含む入職時)を定期的実施する。
- ④ 平時から実際に感染症が発生した場合を想定し、感染症発生時において、迅速に行動できるよう、発生時の対応を定めた指針に基づき、全役職員を対象に年2回以上の「訓練」を定期的実施する。
- ⑤ 感染対策委員会を中心に感染に関する最新の情報を把握し、研修や訓練を通じて課題を見つけ出し、定期的に指針を見直し「指針の更新」を行なう。

(2) 発生時の対応

- ① 日常の業務に関して感染事例または感染おそれのある事例(以下「感染事例等」という。)が発生した場合には、感染対策マニュアルや業務継続計画(BCP) に従い、直ちに「発生状況の把握」に努める。
- ② 感染事例等が発生後は、「感染拡大の防止」として、以下の防止策を実施する。
 - イ) 生活空間・動線の区分け(ゾーニング・コホーティング)
 - ロ) 消毒
 - ハ) ケアの実施内容・実施方法の確認

- 二) 濃厚接触者への対応 など
- ③ 感染事例等が発生後は、必要に応じて事業所長など責任者と協議の上、感染対策業務継続(BCP)等に則り、以下の「医療機関や保健所、行政関係機関との連携」のためにすみやかに報告を行う。
 - イ) 医療機関
 - ロ) 嘱託医
 - ハ) 保健所
 - ニ) 指定権者
- ④ 感染事例等の発生後は、必要に応じて事業所長など責任者と協議の上、感染対策業務継続(BCP)等に則り、以下の「関係者への連絡」をすみやかに行う。
 - イ) 法人内
 - ロ) 利用者家族

3. 基本方針の見直し

感染症を取り巻く状況の変化等により、必要に応じて本指針の見直しを行うこととする。

<附則>

本方針は、令和 5 年 10 月 1 日施行
令和 6 年 5 月 20 日改訂